

日本小児科学会版小児救急蘇生コース(開発中)改め
日本小児診療初期対応コース(3) 受講者アンケートのまとめ
 諏訪赤十字病院 救急科¹
 日本小児科学会小児救急委員会小児蘇生担当²
 西山和孝^{1,2} 井手健太郎² 種市尋宙² 新田雅彦² 太田邦雄² 山畑佳篤²
 梅原実² 市川光太郎² 玉井浩² 寺井勝²

日本小児科学会の定める利益相反に関する開示事項はありません

緒言

平成25年度に日本小児科学会 小児医療委員会小児蘇生教育ワーキンググループによって行われた「小児救急蘇生教育教程の必要性にかかるアンケート調査結果」によると小児救急蘇生教育は現場だけでは不十分であり、1-2日で完了する国内ガイドラインに即した研修コース創出を求められていた。平成26年度より小児救急委員会では小児蘇生担当委員が小児科専門医取得を目指す知識と技術を持った医師を対象として事前学習後の1日完結コース(約7時間)の開発を開始した。

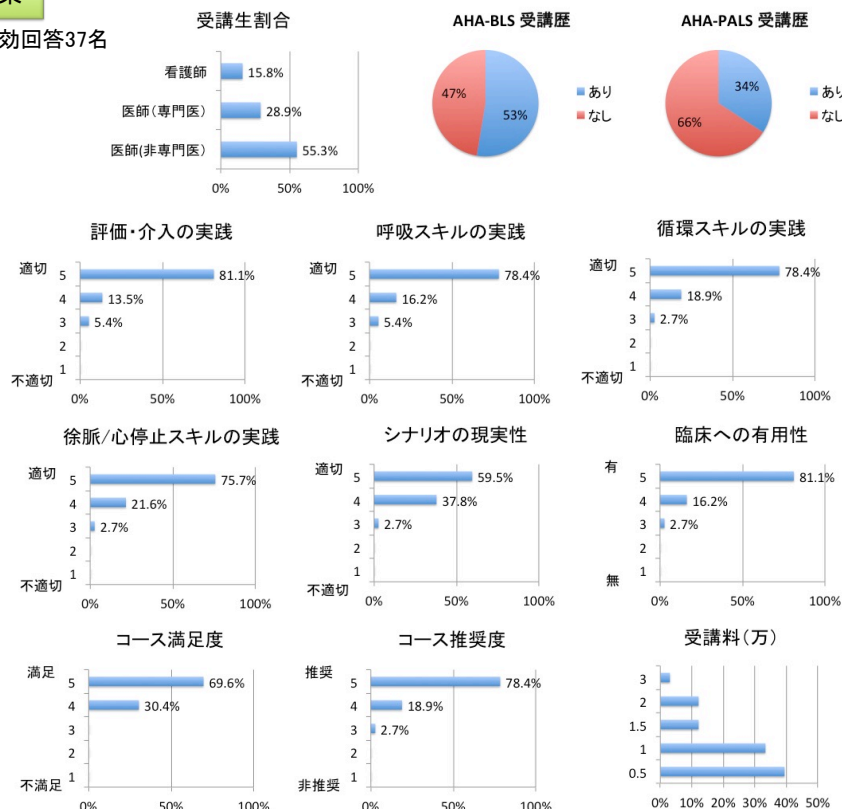
方法

平成27年度に4回のpreliminaryコースを開催し、受講生は下記の通り。
 コース受講後、受講生に対して5点満点でコース内容の評価を依頼した。

- ・6月 富山(α) 6名 卒後3年目(勤務医)
- ・11月 石川(β1) 9名 卒後3-4年目 (勤務医)
- ・2月 大阪(β2) 12名 卒後2-33年目(勤務医・開業医)
- ・3月 東京(β3) 11名 卒後30-40年目(開業医) 5名、卒後4-12年目(看護師) 6名

結果

有効回答37名



考察

コースの内容や臨床への有用性や推奨度は非常に高かった。一方で、シナリオシミュレーションでは現実性を表現するために実際の患児の画像や動画が希望されており、満足度もそれを表す結果となった。受講料は、研修医3年目や看護師からは1万以下という意見が多かった。BLS/PALSなど既存の蘇生教育コースを意識した意見も認められ、本コースの意義や目的をより明確にする必要性が感じられた。

結語

小児科専門医取得を目指す知識と技術を持った医師を対象とするコース開発を行い、幅広い対象者からの評価を受けたが、一定の満足度を得ることができた。

日本小児診療初期対応コース Japan Pediatric Life Support(JPLS)として本年度よりコースの開催を決定したため、今後実際のコースを運用するにあたりさらに完成度を高めていく。